

木材ニュースレター

(財)日本木材総合情報センター
TEL03-3816-5595 FAX03-3816-5062

木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(21年7月分)

1. 調査実施期間 平成21年 6月20日 ~7月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。

7月分の回答企業数は41社、回収率は87.2%である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス) = { (「増加」の評価を行った回答の割合) × 2 + (「やや増加」の評価を行った回答の割合) - (「減少」の評価を行った回答の割合) × 2 - (「やや減少」の評価を行った回答の割合) } ÷ 2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		21/7月	8月	9月
仕入動向	国産材	△ 26.5	△ 22.1	△ 12.1
	外材	△ 18.4	△ 23.7	△ 4.1
販売動向	国産材	△ 22.7	△ 21.2	△ 7.8
	外材	△ 17.1	△ 21.1	△ 1.4
在庫動向	国産材	△ 15.2	△ 16.7	△ 14.1
	外材	△ 16.2	△ 14.9	△ 11.1

仕入は、国産材、外材とも大きなマイナスを秋口(9月)に向け一気に縮め期待大きい。

販売も国産材、外材とも同様に、大きなマイナスを秋口に勢いよく縮め、回復気配出ている。

在庫は国産材、外材ともやや大きなマイナスでほぼ横ばい。

荷動き動向は1~6月に引き続き、全ての項目でマイナスと特段の弱さが続いているが、秋口以降に期待。

(2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	21/7月	8月	9月
スギ正角(グリーン)	△ 12.5	△ 6.3	△ 2.2
スギ正角(KD)	△ 6.3	△ 2.1	△ 2.2
ヒノキ正角	△ 5.8	△ 3.8	△ 2.0
ヒノキ土台角	△ 6.0	△ 4.0	△ 2.1
米ツガ正角(現地挽)	△ 6.0	△ 6.0	△ 2.0
米ツガ防腐土台角	△ 5.8	△ 3.8	△ 2.0
米ツガ割物(現地挽)	△ 1.9	△ 1.9	△ 4.0
米マツ平角	△ 6.0	△ 2.0	△ 2.1
北洋アカマツタルキ(現地挽)	△ 14.0	△ 4.0	4.2
ホワイトウッド集成管柱	△ 4.0	6.0	8.3
レッドウッド集成平角	△ 2.8	2.8	2.8
型枠合板(国産)	△ 12.5	△ 6.3	3.1
型枠合板(輸入)	△ 14.3	△ 2.4	2.5
針葉樹合板	△ 12.5	0.0	10.5

スギ正角(グリーン、KD)、ヒノキ正角、土台ともマイナスを縮め堅調だが勢い出ない。

米ツガ正角、防腐土台角小さなマイナスを着実に縮め概ね堅調な様子。割物は小さなマイナスとやや弱含み。

米マツ平角は小さなマイナス縮め気配良い。北洋材アカマツタルキは、一気にプラスと本格的回復の様相。WW集成管柱、RW集成平角ともにプラス基調と安定感が出てきた。

型枠合板は秋口プラスで確かな回復の勢い。また針葉樹合板は大きなプラスと漸く本格化の様子伺える。

1. 荷動き		コメント
仕入 動向	米マツ一般材丸太では、6月積み米国材輸出価は据え置かれた様子で、カナダ材も追従でコースト・カスケードとも保合いとなった。フレートが若干反発している状況では確実に間屋コストは上昇している。(東京:米材問屋)	
	現地生産調整(米材)しているが、現状では未だ不足感が出ていない。(東京:米材問屋)	
	今月か来月に少量の入荷がある模様だが、本格入荷は秋以降の見込み。(東京:米材問屋)	
	仕入れは当用買いでしばらく様子見。(東京:外材集成材問屋) 販売不振で各社仕入れ減少。(東京:南洋・中国材問屋)	
	全く売れない。安価と分かっても仕入れ意欲なし。(東京:外材問屋) 荷動き感乏しく在庫おけず。(東京:国産材問屋)	
	産地価格は相変わらず強含み。日本以外の買付け量が増加。(東京:南洋・中国材問屋)	
	KD製品以外は丸太端境期のため仕入れられない。(東京:国産材問屋)	
	スギ角用丸太少なく、製品も思うように出来ないが、売れて足りないという状況にはない。(東京:国産材問屋)	
	無垢材の仕事少なく、仕入れは極端に減少。(東京:国産材問屋) 国産材・外材とも全般に売行き悪い。(東京:仲買小売)	
	土台角はじめ並材が減少、入荷は急減だが市況は相変わらず弱い。(東海:国産材問屋)	
特殊物件用の原材料仕入れ一段落。梅雨の今は伐採時期悪く当面見送り、今後は品不足も考えられ、不測の事態に備え原材料の補充をする考えである。(東海:仲買小売)		
販 売 動 向	米マツ一般材丸太 京浜マーケットでは、輸出価の下げ止まり、フレートの反発等、間屋コストは上昇しており、今月より相場も下げ止まり保合いとした。(東京:米材問屋)	
	米材は今のところ販売に増減ない。北欧は増加してきた。(東京:米材問屋)	
	今月に入り細かいながらも引合いが増え、成約も出来ている。ただし徹底した当用買いのため実に細かい。(東京:米材問屋)	
	7月は若干良くなるかも知れないが、8月は確実に落ち込む。(東京:外材集成材問屋)	
	安値材が出ているのか通常の見積価格では注文がとれない。(東京:外材問屋)	
	相変わらず細かい注文が多い。顧客により仕事量の明暗が明確になってきている。(東京:南洋材問屋)	
	公共事業の仕事が若干出ているが一般の仕事は少ない。(東京:南洋材問屋)	
	スギ、ヒノキとも役物関係の仕事少なく、非常に厳しい商況である。(東京:国産材問屋)	
	売上確保難しく、価格下げもあり?(東京:国産材問屋)	
	造作材は圧倒的に加工材の割合が増えて来た。納期に余裕が無い。(東京:国産材問屋)	
盆前に多少荷動き期待でている。(東京:国産材問屋) 6月は最低の動き。(東京:国産材問屋)		
動きが細かくなっている。低値であると川下も川上も認識しているが在庫動かない。(東京:国産材問屋)		
弊社のプレカット工場は6、7月とやや稼働率が上がっているが、市場等の流通荷動きは依然として悪い。米加材、北欧材とも価格、荷動き等動きはあまりない。(東海:外材問屋)		
全く荷が動かない状態。いつまで続くのか。(東海:外材問屋)		
経済が底打ちしない限り需要回復の道は遠い。小さな改造・補修工事も無くなった。(東京:仲買小売)		
完全に商いがストップした状態。これがいつまで続くのか不透明。弊社も閉店を考慮中。(東京:仲買小売)		
地産地消、助成制度、CO ₂ 削減等諸要素を鑑みると国産材の仕入、販売に力を入れて行くべきと考えている。(東海:仲買小売)		
景気は底打ちと言われているが、関西地区の建築関係は未だに活気なし、停滞中。(大阪:仲買小売)		
5月より売上減少。忙しくなるのはいつになるのか。(大阪:仲買小売)		
在 庫 動 向	京浜港では5、6月と米マツ丸太が連続して入荷しており、製材メーカーの製材ボリュームが増えない状況で、問屋は在庫減少に必死である。(東京:米材問屋)	
	取引先は極端に在庫しない状況が続いている。(東京:米材問屋) 全く入荷が無く減る一方である。(東京:米材問屋)	
	売れ行きに見合った仕入れをするとだんだん在庫が減ってしまう。(東京:外材問屋)	
	寸法により在庫が無いものが目立つ。(東京:南洋・中国材問屋) 現状をピークとして増やさない。(東京:外材問屋)	
	売れる物だけ仕入れ、余分な在庫は置かない。(東京:南洋・中国材問屋) 荷動き品目選定できず在庫増。(東京:国産材問屋)	
最低限以外は在庫しなくなったし、する必要もなくなった。(東京:国産材問屋)		
常に市場に在庫あるので、在庫は不安。(大阪:仲買小売)		
2. 価格動向		
スギ正角	全般に売れ行き不振。仕事が少ない。(東海:問屋) 全く動かず。(東海:問屋)	構造材不振極まり。(東京:問屋) 安値安定。(大阪:仲買小売)
ヒノキ正角	KD材品切れ場面有り。(東京:問屋)	
土台角	原木入荷減により多少持ち直した。(東海:問屋)	
米ツガ	注入土台は集成材にマーケットを取られている。(東京:米材問屋)	
米マツ平角	集成平角が割安のためか全く売れない。(東京:問屋)	
北洋アカマツ タルキ	市場縮小のため少しの要因で価格が変動してしまう。(東京:仲買小売) 入荷少なく動きもない。(東京:仲買小売)	
WW・RW 集成材	WW間柱先物値上げだが、需要は少ないので売価に乗せられるか。(東京:問屋) 思ったより需要が伸びず値も上がらない。(東京:問屋) 価格は下げ止まりだが値戻しまでは行かないと思う。(東海:外材問屋)	
合板	価格が落ち着くのではないかと思う。(東京:仲買小売) 横ばい。(東海:外材問屋) 大幅に減産しても在庫大幅に増加。需要低迷のため値を下げて動かず。(東京:仲買小売) メーカー、輸入商社にとっては正念場と思うが下落しそうな雰囲気。下げても量が捌ける訳でもなし。(東京:仲買小売) 針葉樹構造用合板価格が現在の荷動きの指標となっている。(東海:仲買小売)	